

〔資料〕

- ・白鳥神社：元は白鳥陵の頂に鎮座。江戸時代に古市の氏神として現在地に。日本武尊・素戔鳴尊（午頭天王）・稲田姫命を祀る。明治時代に近隣の高屋神社を合祀、その祭神嵯速日命（ニギハヤヒノミコト）・第27代安閑天皇を合わせ祀る。
- ・白鳥陵古墳（経里大塚古墳）：日本武尊（景行天皇皇子、仲哀天皇父）の墓。宮内庁より白鳥陵としてとして治定されている。全長190m、後円部径106m、高さ20m、前方部幅165m、高さ23m。古市古墳群では7番目の大きさ。羽曳野市の名前の由来となった5世紀後半古墳。
- ・菅田八幡宮：応神天皇の崇廟として歴代の行幸を仰ぐ。朝廷幕府からの庇護も厚く武神として崇められた。現在の社殿は豊臣秀頼による再建。宝物館には国宝の神輿応神天皇陵出土の鞍金具など多くの宝物を所蔵。祭神は応神天皇、仲哀天皇、神功皇后。
- ・栗塚古墳：応神天皇陵古墳の外堤傍の墳丘長43m、高さ5mの方墳。応神天皇陵の付属墳と考えられる。5世紀前半築造。
- ・二ツ塚古墳：応神天皇陵古墳の東側に隣接して造られた4世紀後半築造の前方後円墳。墳丘長110m、後円部径73m高さ10.1m。前方部は幅60m、長さ50m、高さ8.6m。応神天皇陵（菅田御廟山古墳）にごく近い人物が埋葬されたと考えられている。
- ・応神天皇陵（菅田御廟山古墳）：5世紀初頭築造と考えられており、墳丘長約425m、後円部径250m、高さ25m、前方部幅300m、高さ36mの古市古墳群最大の前方後円墳。墳丘長・体積共に大仙陵古墳（仁徳天皇陵）に次ぎ日本第2位の大王陵である。
- ・菅田丸山古墳：応神天皇陵古墳の北側外濠に接して造られた円墳。応神天皇と関わりのある人物の古墳と考えられている。墳丘径50m、高さ7m。
- ・大鳥塚古墳：墳丘長110m高さ12.3mの前方後円墳。後円部は3段、前方部は2段。5世紀初頭築造と推定され、古市古墳群では中形。第二次世界大戦中掩体壕（えんたいごう）に利用。
- ・古室山古墳：仲姫陵古墳と応神天皇陵古墳の間に築造された前方後円墳。墳丘長150m、後円部径96m、高さ15.3m、前方部長100m、高さ9.3m。古市古墳群の中では初期に築造された4世紀後半の前方後円墳。埋蔵施設や副葬品は不明。
- ・仲姫命陵古墳（仲ツ山古墳）：4世紀末から5世紀前半築造と推定され、古市古墳群では2番目、全国では9番目に大きな古墳。全長290m、後円部径170m、前方部幅193m、高さ23.3m。第15代応神天皇皇后の仲姫命の陵に治定されている前方後円墳。第14代仲哀天皇陵の説もある。
- ・中山塚古墳：仲津山古墳の南側にある三ツ塚古墳（助太刀山古墳・中山塚古墳・八島塚古墳）三基の1つ。一辺50m、高さ8.5mの方墳。
- ・道明寺天満宮：道明寺天満宮周辺は菅原道真の祖先である土師氏の根拠地だった。この天満宮は土師氏の氏神として成立、後に土師氏の子孫と関係つながりの深い菅原道真、天穗日命、覚寿尼を祀っている。
- ・柏原市立玉手山公園：平成10年、近鉄玉手山遊園地を平成11年3月にオープンした。標高73mの広い丘陵地の公園内には、各種広場・展望台・展示館や大坂夏の陣関係の石碑供養塔（後藤又兵衛ほか）、小林一茶句碑などもある。
- ・允恭天皇陵：市野山古墳。古市古墳群北東部にある古市古墳群4番目の大きさの前方後円墳。築造時期は5世紀後半。墳丘の長さ230m、後円部の直径140m、高さ22m。允恭天皇は第19代天皇。